

# お亀が池の 大蛇



昔、お亀という若くて美しい娘が、伊勢国（三重県）から大和国（奈良県）曾爾村の太良路に住む若者のもとへ嫁にきた。やがて、夫婦にかわいい男の子が生まれた。ある日、お亀は夫に「私の役目は済んだので、お暇を下さい」と言い、実家に帰ってしまった。

その夜、赤ん坊が乳をほしがって泣いた。困った夫は、妻が去りぎわ、「もし用があつたら池のあたりで私の名を呼んで」と言い残したことを思い出し、赤ん坊を抱いて家を出た。「お亀よ、お亀よ」と呼びながら池のあたりまでくると、どこからともなくお亀が現れ、赤ん坊に乳を飲ませた。赤ん坊がすやすやと眠ると、「明日からはもう来て下さるな」と哀しうに言い、消えていった。

抱いて一目散に逃げた。その後、夫は大病で死に、池の大蛇も山火事で焼け死んだという。赤ん坊がどうなったかは伝えられていない。池はやがて「お亀が池」と呼ばれた。

しかし、次の日も、また赤ん坊は夜泣きした。夫はしかたなく、また池のあたりまで行く。と、池の水がにわかには波立ち、お亀が姿を現した。

そして、「もう来るなど言ったのになぜ」と、恐ろしい声で言うと、たちまち大蛇の姿となり、大口を開けて襲いかかってきた。夫は赤ん坊をしつかりと

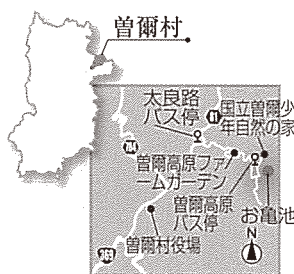


お亀池。曾爾高原の真ん中にあり、大部分が湿地帯で周囲を遊歩道が通っている



夕陽に映えるすすきが美しい曾爾高原、右に見えているのがお亀池

曾爾高原へは、近鉄名張駅から三重交通バスで約50分。曾爾高原バス下車、約500m。



形は輪郭がよく見える。周囲九〇メートル。今もわずかに水をたたえている。

晩秋、すすきの白い穂が風にそよぎ、折からの夕陽に染まっ  
て黄金色に輝いている。大自然の雄大さ、荘厳に包まれる静かなひととき。山の向こうから早くも夕暮れが近づいていた。